

第4回 枚方市教育委員会協議会 会議録						
開会	平成28年4月21日午前11時20分			閉会	平成28年4月21日午後0時05分	
日程番号	案 件					
【公開案件なし】						
教育長		氏 名		欠	議席番号	氏 名
		奈良 渉			番	
出席委員	議席番号	氏 名		席	番	
	1番	徳永 博正			番	
	2番	吉村 雅昭			番	
	3番	橋野 陽子			番	
	4番	神田 裕史			番	
説明員	管 理 部 長	君家 通夫		説	教育環境整備室課長 (教育施設保全担当)	黒川 清
	学 校 教 育 部 長	若田 透			教育環境整備室課長 (学校規模等調整担当)	兼瀬 和海
	社 会 教 育 部 長	中路 清			学 校 給 食 課 長 (副参事級)	前村 卓志
	管 理 部 参 事	俣野 浩一			教 職 員 課 長	大船 純之
	管 理 部 参 事 兼 次 長 兼 教 育 環 境 整 備 室 長	益田 正治			児 童 生 徒 支 援 室 課 長 (生徒指導担当)	狩野 雅彦
	管 理 部 参 事 兼 次 長	森澤 可幸			学 務 課 長 (副参事級)	早崎 由子
	学 校 教 育 部 次 長	高橋 孝之			教 育 推 進 室 教 育 指 導 課 長	位田 真由子
	学 校 教 育 部 次 長 兼 教 育 推 進 室 長	花崎 知行			教 育 推 進 室 教 育 研 修 課 長 兼 教 育 文 化 セ ン タ ー 館 長	喜多 一友
	社 会 教 育 部 次 長	片岡 政夫			社 会 教 育 課 長	奥野 美佳
	社 会 教 育 部 次 長	山口 俊也			放 課 後 子 ど も 課 長	精木 孝充
	社 会 教 育 部 次 長 兼 中 央 図 書 館 長	藤丸 知子			文 化 財 課 長 (副参事級)	鈴江 智
	児 童 生 徒 支 援 室 長 兼 課 長 (支援教育担当)	田辺 元美			ス ポ ー ツ 振 興 課 長	五島 真紀子
	管 理 部 副 参 事	寺西 光治			中 央 図 書 館 副 館 長 (課長級)(サービス担当)	松井 一郎
	教 育 総 務 課 長 (副参事級)	小菅 徹			中 央 図 書 館 副 館 長 (課長級)(企画担当)	中道 直岐
	教 育 環 境 整 備 室 課 長 (教育施設整備担当)	藤井 禎人			記 録	教 育 総 務 課 課 長 代 理
					傍聴の人数	0人

○奈良教育長 それでは、教育委員会協議会を開会いたします。

まず、委員それぞれの活動報告や所感などをお願いしたいと思います。

それでは、私から報告をさせていただきたいと思います。

私は、第三中学校で退職を迎えましてから5年間、府の学力向上対策事業に携わってきたわけですが、とりわけ学力課題のある学校を数多く訪問してきました。市町村教委にも数多く訪問したんですけれども、そのときは私一人ではなくて、府の指導主事とペアで市町村教委を訪問するわけでございます。学校訪問につきましては、市町村教委が管理監督庁であることから、市町村教委の担当指導主事も同行願って、府の指導主事と私と、そして市町村の指導主事ということで、3名が学校を訪問することになっておったわけです。

私の立場は校長OBということで、学校支援員という肩書でありました。府教委の担当指導主事は大変優秀なんですけれども、若いわけです。校長への指導助言には遠慮が生まれて、校長先生のほうでも、学校で管理職を経験していない若い指導主事の指導助言に対しましては、軽く聞き流す方もおられたようでございます。そういったことが起こらないようにという判断で、私のような立場の者が府の指導主事に同行したと、このようなことなんです。

目的地に行くまで、その若い指導主事といろいろなお話をさせてもらうわけなんですけれども、私からいろいろなお話をしたその中身は、指導主事にとってはいい勉強になったというような声も聞いたわけでございますが、本市の指導主事も大変若くて経験の浅い人が多くなってきているように思います。指導主事の本分は、教育長の命を受けて、学校訪問した際に、校長先生相手に指導助言をしていくと、こういったことじゃないかなというふうに思っているんですけれども、若くて経験が少ないと、学校の現状把握であるとか、あるいは、校長先生への指導助言が、なかなか難しいのではないかなというように思うわけです。

そこで、本市教育委員会でも校長OBであるプランナーの方が何人もいらっしゃるわけですが、既に有効活用はしておられるとは思いますが、ぜひ、さらなる有効活用を図っていただきたいと、このように思っております。

また、市町村教育委員会を訪問した際には、担当の指導主事から、学力向上に向けた事業であるとか、施策の成果と課題をお聞きするわけなんですけれども、ここでは指導主事の力量や、あるいは能力などが非常によくわかるんです。指導主事が変わりますと、市町村がこれまで実施している事業や施策が、本来の趣旨が生かされた実効性のある取り組みに変わることもあるわけです。逆のこともあるわけです。

指導主事の役割は大変重要です。府下の市町村教育委員会では、本市も参考にしなければならないような、とてもよい取り組みを、あるいは施策を実施している市町村があるわけですが、学力向上への学校訪問というときには、学力課題に正対した取り組みを行っているのかというようなことについて、学校の学力担当者の教諭からいろいろ聞き、同時に校長のビジョンなども聞くわけなんですけれども、それに対して指導主事は助言をして帰ると、こういうパターンなんですけれども、やはり指導主事の力量を上げていくような部分を、これからさらに講じていただきたいと、このように思っております。

私どもが学校訪問したときには、必ず授業を見せてもらいます。玄関入っただけで大体どん

な学校かわかります。靴箱を3か所ほどあけてやっつスリッパに当たるとか、当たったスリッパの口があいているとか、そういった学校は生徒の下足室を少しのぞきますと、靴が幾つも下に落ちていたり。こんな学校は大体教室も同じようなもので、壁に張られた掲示物が汚れていたり、床に紙くずが落ちていたり、生徒の机に落書きがあつたりとか、生徒の授業規律も随分乱れています。

授業されている先生の様子を見ると、ジーンズにTシャツで、足元を見るとサンダルをつっかけていると。当該の先生たちは、この光景になれているのか、学校は大体こういうものかなというふうに思っているのかわかりませんが、さすがに校長先生や教頭先生は、廊下に落ちている紙くずなんかを慌てて拾われて、恥ずかしそうにされております。

枚方の学校にはこんなことはないと思うんですけども、私たち教育委員のほうも時間の許す限り学校に赴いて、学校の様子をつぶさに見る機会をつくっていく必要もあるのかなと、このように思っています。

学校を訪問した際、私どものほうは、次に言うようなことを中心に聞いたり、あるいは見てきたりするんですけども、若干紹介したいと思います。

まず、学力向上に向けた学校の決意があるか。確かな目標、基本計画が確立しているか。計画が実行性のあるものとなっているか。学校運営上の課題として、校長のリーダーシップを発揮できているのか。教職員の役割分担は生かされているか。教員に同僚性が発揮されているか。授業づくりにつきましては、授業力の向上への取り組みがあるのか。教科部会が成立しているか。教員間で相互授業参観などをして、授業力の向上を図っているのか。基礎・基本の定着を意識した授業づくりはなされているか。興味関心を引く授業づくりがなされているか。指導方法の工夫・改善のための校内研修体制が確立しているか。新任教諭を育てようとする雰囲気があるか。学習規律におきましては、学習環境及び授業規律が確立しているか。教室の学習環境が整備されているか。生徒会活動が生き生きしているか。生徒指導体制が確立しているか。自学自習力の育成については、生活習慣、家庭学習習慣の確立、遅刻や服装違反等、課題を抱えた子どもへの温かい視線があるか。家庭学習の定着を狙った取り組みがあるか。学校や家庭を支える地域活動が活発に行われているか。

今申し上げたようなことを学校を訪問した際、瞬時に、いろいろと見ていくわけです。そしてそれを帰りました後、レポートにまとめて上司に提出すると。これが私の仕事だったわけです。

こういった経験を通じて、大変いい勉強ができたなど、このように思っております。この経験をぜひ生かして、枚方の教育の充実と発展に努めていきたいと、このように考えているところでございます。

私は以上です。

それでは、徳永委員、よろしく申し上げます。

○徳永委員 失礼します。

4月1日に新しい制度になったわけですがけれども、新しく奈良教育長、橋野委員、神田委員をお迎えしました。事務局にも新しい職員をお迎えしたわけです。そういう形でこの委員会が出発しましたわけですが、教育の充実のために、今も教育長がいろいろ、基本的なところをお示しく

ださったわけですが、課題の解決に向けて、教育長のもとで皆が力を合わせて、組織としてしっかり取り組んでいけるように願っています。私も微力ですが、応分の務めを果たしていくつもりでありますので、よろしくお願いします。

この一月間の報告ですが、卒業式のことなどからです。

卒業式は招提北中学校、樟葉小学校、枚方幼稚園と参りました。いずれも厳粛ですばらしいものでした。

いつものことなんですけれども、感心しますのは、校園長先生方の式辞です。いずれもしっかりりはなむけの言葉として子どもたちの心へ届いたものであろうと思われま。感銘を受けました。

続いて入学式ですが、山田小学校、山田中学校、田口山幼稚園に参りました。

こうやって3月から4月にかけて、順序は卒業式から入学式へとなるんですが、また行った学校も異なるわけですが、それぞれに出席してみて、幼稚園入園のときから中学校卒業のときまで11年間、この間の学校教育がどれほど大きな意味を持つかということに改めて実感させられます。そういう場面として、この一連の行事へ参加することを喜びとしています。

特に、私ごとですが、かつて府の教育委員会事務局に奉職しておりましたころに、この式典については、なかなか難しい状況がございました。もう前にも申し上げたこともあったかと思うんですが、円滑な実施を妨げようとする露骨な動きもあつたりしましたので、それにかかわっての仕事もしておりましたが、校長先生はじめ、大変なご努力が関係者の中で行われてきて、ようやく現在のように行えるということになったのではないかと思います。今昔の感に堪えません。

しかし、今後とも式が厳粛に行われるように、またさらにその意義が子どもたちにとっても明確なものとなるように努めていかなければならないと、そういうことを希望しております。

行事では、3月21日に中学校の音楽で夢が膨らむ学校づくり事業合同発表会へ参りました。

それぞれ演奏にはそれまでの練習が大きく控えているわけですが、その力を伺わせるものがありました。中に単なる演奏を超えた工夫をしているような学校もありまして、おもしろい場面もございました。

ともかく生徒たちがその力をそうやって発揮できるということ、これは非常にいい場面だと思つて、より一層発展することを期待しています。

次は4月1日の辞令交付式。こうやって新しいメンバーがそろった場面でしたが、緊張感のあるよい式典でした。

4月11日、校園長会に臨み所感を述べました。そこにおいては、昨年は平和教育について、その前、つまり2年前に平和教育にかかわって問題提起をいたしましたので、それを受けて昨年度は平和教育にかかわるお話をしましたが、その後、異文化理解教育について問題提起をしておりましたので、この間の話は異文化理解教育にかかわっていたいたしました。

いずれにせよ、事務局においては、指導主事の人たちを中心に、この間何度か話をする機会も頂戴し、研究を進めるということに努めていただいておりますので、今後とも平和教育、異文化理解教育のあり方に関して、学校現場においても着実に研究を進めていっていただきたいと願っています。

いずれにせよ、問題の根は深く、我々が往々にして持っている予定調和的な幻想がありますので、それを超えて世界の多様性と差異、違い、我が国の独自性を捉えることができるように、子どもたちの発達段階に応じて、そういう教育が行われることを念願しています。

最後に、大綱の策定についてです。

市長が先般、枚方市教育大綱を定められました。このことに関しては、2月2日の総合教育会議で、他の教育委員も一緒になって、それぞれ平素より考え、発信してきたようなことなどを基に協議を行いました。

市長にはそれらを踏まえた上でお決めいただいたということになり、感謝しております。

なお、事務局の労もねぎらいたと思います。

ただ、この後できる市の教育振興基本計画も含めて、これらの基本文書が教育行政において、ひいては学校で、それぞれうまく生かされていくように望みます。主事も含め、それらの取り扱い方について、事務局にはよろしくお願ひしたいと思います。

以上です。

○奈良教育長 ありがとうございます。

続いて、吉村委員、お願いします。

○吉村委員 年度末と年初に関しましては、今、徳永委員がおっしゃった内容で、卒業式、入学式含め、それから、それぞれの中学校のプラスバンドの式典、演奏会等については、ほぼ同じ内容でございます。

この年度末にかけて、特に教育委員会制度自体が移行期間ということで、新制度になるというところで、事務局においては、大綱の話も含めて、本当にご苦勞をされて、本日を迎えておられるなということについては、感謝申し上げたいと思います。

新年度は、我々も本当に心新たに、何とか枚方市の子どもたちのために力を尽くしていきたいと、本当に決意を持っております。

新しく教育長になられました奈良教育長に関しましては、偶然なんですけれども、最後にお勤めの学校が隣接する府立高等学校に勤務してございまして、時を同じくしてちょうどかわらせていただいて、忘れもしませんけれども、第三中学校の校舎建てかえのときに、3年間連続で府立高校のグラウンドを使っていたいただきました。恐らく、後にも先にもそういうことというのは、まずどこを見渡してもないだろうなということで、そういう連携ができたことや日常なこと、すごく印象に残っております。

学校協議会の委員もお願いしてございまして、最終の委員会の、奈良先生が校長先生のときに、実は3月11日の東日本大震災の日に会議があったということで、これも本当に忘れもしない出来事だったなというふうに思います。何かのご縁をすごく感じて、しっかりと我々も支えていきたいという気持ちを持っております。

今の現職といいますか、このお仕事以外の大学関係の仕事の中で、特に教員採用試験にかかわる内容の仕事をさせていただいております。教員を目指す学生と日々、毎日話している中で、特に今年に関しましては、大阪府の採用試験の概要、それから日程が変更になり、その対応に日々追われているわけなんですけれども、面接指導も、個人面接ということに府のほうはなりました

ので、毎日学生と本当にたくさんの時間を過ごしています。

その中で、いろんなことについて、こちらから質問を投げっていきます。その中に、もちろんキーワードもたくさんあるんですけども、学力低下の問題について、あなたは何か気になることはありますか、と言ったときに、多くの学生は、学力低下や体力の低下ということを書いてくれます。その場合、こちらから、学力低下については、これを向上させるためにはどうしたらいいんですかということを考えさせます。なかなか答えとしては、すぐに出てくる学生は少ないんですけども、ヒントを与えると、ああそうなんだというふうに考えてくれる。ヒントにつきましても、これは学力低下と言われているけれども、考えてごらん、学習意欲が低下しているために、結果として学力低下があるんじゃないかなということを書きますと、はっと気づいて、あ、そうですね、そうしたら、先生、学習意欲を向上させるためにどんなことを考えないといけないのかというふうに、考えが次に発展していくということがあります。まさにそのもので、先ほどのお話等にありましたけれども、子どもたちの普通の学校という居心地のいい居場所づくり、環境づくり、こういうことをきちっと日々行うことによって、まず学習意欲が少しでも向上してくるんじゃないかなと。教育長が先ほど、学校に行ったときの清掃の具合であるとか、教室の環境であるとかということが結びついているという、まさにそのとおりだなというふうに思います。

今、旬の言葉ですけども、ユニバーサルデザイン化した授業づくり、あるいは環境づくりということが、今までからずっと、これは当たり前のことなんですけれども、新しい言葉としては最近よく出てきます。このことをもう一度、学校現場の皆さん方も含めて、教科担当の先生、研修等もいろいろされていくと思うんですけども、もう一度自分が振り返ってみて、学校の中のさまざまな環境とか授業づくり等についてお考えいただきまして、この枚方市の子どもたちのために、我々も本当に、頑張っているような学校へ行かせていただいたり、お話もさせていただき、そして、先生方もしっかり頑張って、もちろん管理職も含めて、トータル、チーム学校として自分の学校はどう運営されていくのかということをやっぴりとも意識をしていただきたいなど。教育委員会としても、全面的にその辺を、やっぱり、今年また心新たにサポートしていくような体制で、微力ながら私も頑張っていきたいというように感じております。

以上です。

○奈良教育長 ありがとうございます。

続いて、橋野委員、お願いします。

○橋野委員 4月1日より枚方市教育委員として素晴らしい大役をいただき、子どもたちの教育に携わる喜びを感じているところです。

辞令交付式では、新規採用の先生方、異動されてきた先生方の凛々しい顔、希望に満ちあふれた顔を見て、たくさんの先生たちが採用されて、先生たちも子どもたちと一緒にいろいろなことを体験し、感じ、それを次につないでいていただきたい、一緒に成長して行ってほしいという気持ちで、子どもたちをどうぞよろしく申し上げますという気持ちで列席させていただきました。

入学式では、自分の子どもの入学式もあり、行けなかったものもあるんですけども、樟葉小学校に列席させていただきました。渡邊校長先生、塚原教頭先生、PTAの皆様より心温かく接していただき、地域との一体感、とてもいい環境の小学校なんだということがすごく伝わって

きました。住宅の中にあり、たくさん子どもたちが皆キラキラした目で見てくれました。

入学式の際に、6年生が小学校での生活を題材とした劇をしてくださいましたが、それを一生懸命聞いている1年生の子どもたちがとても集中していて、幼児のときにしっかり指導していただいたんだなというのがとてもよくわかりました。国歌も、中学生や高校生よりしっかり歌えていたような気がします。

それから、枚方信用金庫様より寄贈されましたモバイルプラネタリウムと、リフト付き運搬車を見させていただきました。プラネタリウムは、投影会ではわかりやすく興味引かれる説明で、思わずその夜に夜空を見に行っただけですけれども、やはりなかなか見えなくて、プラネタリウムを見たので、あ、この星があるんだというのがとてもよくわかり、みんな、穂谷のほうへもちょっと見に行っただけのほうがいいんじゃないということをおっしゃっていただこうと思います。

小学校や地域へ、出張プラネタリウムとしてどんどん活躍していただけたらいいかなと思います。

リフト付き運搬車については、たくさんの本の出し入れがとてもしやすい車ということで、本を待っている人たちにもどんどん活用していただけたらいいなと思いました。

微力ではございますが、これからどうぞよろしくお願いいたします。

以上です。

○奈良教育長 ありがとうございます。

神田委員、お願いします。

○神田委員 このたび、橋野委員と同様に教育委員に就任しました神田です。重責を思いますと、非常に身の引き締まる思いなんですけれども、光栄に思っています。

私は、退職して5年になりまして、生まれ育った枚方市で、私は招提の出身なんですけれども、枚方市に退職後は何らかの形で返したいなと思っていて、幸い、いろんな学校に訪問して、学校の校長、先生、職員といろいろな形でかかわれたことを嬉しく思っております。

校長会でも申しましたように、約15校ほど訪問して、だいたい1校に3年間ぐらい入るんですけれども、5年で200回ほど行き、そのうちの160回ほどは授業を見ました。1年目のところでは先生方に戸惑いがあるんですけれども、2年目、3年目になるともう、非常に前向きに取り組んでこられて、指導案をメールで送ってくるんですけれども、来てほしいということで、夕方5時、6時になりますよと言っても、待ってますと。4人、5人の学年主任を中心に待っていていまして、非常に熱意を感じました。

これからという若手の教員、10年未満の教員が四十数%という状況なんですけれども、やはりその中で、かなり優秀な教員もおりますので、先ほど奈良教育長が言われましたように、やはりいい方向に育成していただいたかなと思っています。何校かの学校から、今年度指導主事に昇格された方もおられますので、非常にうれしく思っています。

行事につきましては、入学式、入園式に行かせていただきました。ほかの方と同じですので詳しくは申しませんが、5年間離れましたけれども、本当に厳粛に行われたということで、嬉しく思っています。さらにきちっと、向上されるように取り組んでいただけたらと思っています。

話は変わりますけれども、3月末に君家部長から、「枚方の教育」の平成27年度版をいただきました。学校へ対する指針ですね、これをずっと見ておりまして、膨大な量ですので、全部見切れませんでしたけれども、それを見ての感想を申し上げたいと思います。

この「枚方の教育」の平成27年度版を見せていただいたんですけど、はじめに、教育委員会の財政状況を見まして、平成27年度の当初予算が132億円強ということで、26年度よりも増えておりまして、8.8%から一般会計に対して10.4%に増額されていると。今日補正を見ますと、さらに増えておりますので、27年度決算額とかはわからないんですけども、かなり教育に投資をされているということがよくわかりました。内容の詳細は、またここも勉強していきたいので、ご指導いただきたいと思います。

これだけのお金ですので、各部有効に活用していただけたらと思っています。

次に、「枚方市教育大綱」もいただいて、ずっと目を通しますと、この方針のⅠ、Ⅱ、Ⅲは、それぞれ3部ありますけれども、管理部、学校教育部、社会教育部の方針だなというふうに読み取りました。

その中で、管理部におかれましては、やはり、学校の安全対策や施設など、環境整備を非常に計画的に取り組んでいただいている方向がよくわかりました。

私も学校現場にいるときに、安心・安全とともに、学校は美しいというのが、先ほど教育長も言われました、清掃がまず大事なんですけれども、こういうハード面を充実していただきますと、非常に保護者、子どもに喜ばれます。

今後、71の学校園がありますから大変だと思いますけれども、施設の保全工事、ドライ方式のトイレ改修ですね、計画的にやっただいただいていると思いますので、今後、学校施設整備計画とともにやっただいただきますと、ハード面はよく見えますので、これはもう教育委員会はこんな方向に進んでいるということが見えますので、ぜひともお願いしたいなと思っています。

2つ目は学校教育部なんですけれども、小中一貫教育が本格的に始まり1年目になったのですけれども、「連携」から「教育」というこの違いが、いろいろ事務局のほうで説明されていると思うんです。私のほうもまだわからないところもありますけれども、共通施策の観点のビジョンというものが、より学校現場で取り組めるような形に、事務局でも考えられていると思うんですけれども、具体的な内容を示していただいたら、より進みやすいのではないかなと思っています。

プロジェクトチームか、そういうのがあるというようなことも少し聞いたのですけれども、この辺にリーディング校とか、チームに実際その辺の、校長先生が入っていらっしゃるかどうかわかりませんが、やはりモデル的な進んだところをどんどん取り入れて、引っ張る中学校区がないと、みんなが同じというのは難しいと思います。

そういう意味で、今、昨年度連携から取り組んだ学校で、よくやっている中学校だったらどんどんそれを現場から聞いて、前に引っ張る学校がないと難しいのではないかと。その辺をまた考えていただいたらと思っています。

あとは、社会教育部なんですけれども、図書館や歴史、スポーツと幅広い分野で、どうしても関心があって、施策をいろいろ見せていただいているんですけども。図書館の第3次グランドビジョンを見せていただいたときに、本当に立派なものをつくられたなということでびっくりし

ました。

このことで、先日ある校長先生と学校訪問へ行く用事があって話をしましたら、その校長先生がこのビジョン作成にかかわったという話をされていて、私たちの意見を、私の意見をこのビジョンの中に反映していただいたと。非常にうれしく、またやりがいも感じましたというようにおっしゃっていました。やはり現場の本当に前向きなそういう校長等の意見を聞いて、このような施策に盛り込んでいただくのは、非常に前に進みますので、今後もやっていただけたらと思います。

子どもはやはりスマートフォンとかデジタルの部分に非常に興味があるんですけども、アナログとといいますか、こういう読書をするのは非常に大事だと思っています。7、8年前に立命館小学校の副校長の陰山さんと、東北大学の川島隆太さんのディスカッションを聞いたんですけども、立命館小学校は非常にデジタル化をやっているんです。全教室電子黒板のデジタル化をやっているんですけども、しかし、アナログもやっているんです。しかし、その中で川島隆太さんがおっしゃったのは、アナログとデジタルのバランスですよということです。簡単な計算とか、ものを調べるのはスマートフォンやインターネットなどでできますけれども、やはり自分で頭で考える、Thinkingですね。そういうものを大事にする。その一歩が読書であると思います。

今の学習指導要領の根本は、言語活動を充実するということが一番の根本基本ですので、読書を子ども、保護者、市民にやっていただいて、非常にありがたいと思っています。

もう時間が長くなりますので、最後に1点だけ。枚方市の文化施設ですが、「枚方の教育」を見ていましたら、国・府・市の文化財の指定が載っていたんですけども、私、枚方小学校に勤めてまして、知らなかったんですけど、退職後に知ったんですけども、一覧に意賀美神社の算額があったんですね。これは、京都女子大学の平野教授という方がおられて、以前から面識がありまして、退職後、神田さん、あなたのいた学校に意賀美神社の算額があるよと教えてもらいました。算額は昔の絵馬などに書かれている、大きい額みたいなもので、数学の問題なんですけれど、3問あるんです。それを研究しようかということで、2年前に一緒に研究会を立ち上げてやっているんですけども。私はその意賀美神社の算額をテーマにやっております、3問あるんですけども、数学で解かないと難しい問題なんです。微分積分の世界のところなんですけれども、1問は易しくできたらというので、小学校向けに教材化して、6年生にやってみようということで、2年前に枚方小学校の子どもに授業しまして、非常に乗ってきまして、今、枚方中学校2年生の生徒になっています。そういうのをやりますと、こんな地域にこんなのがあったのかということで、子どもも驚き、数学だけではなくて、地域の施設に関心を持ってくれました。

その算額の授業の話は別にしまして、3月末にこれの本も刊行されましたので、算数の本なんですけれども、意賀美神社のことが全国に載りますので、また部長さんにお渡ししたいと思います。

それとともに、やはり、市民の方もこういう立派なものがあるということ、いろんな文化施設がありますので、広報ひらかたの裏表紙、関心があって、僕もいつも感心して見ているんですけども、載っているところを取り入れられたり、きららの廊下に貼るなどですね、いろいろや

って予算を組んでおられますので、今度そういう形などで、より発信していただいて、市民の方に枚方の文化をさらに知っていただくようにしていただけたらなと思っています。

先ほど教育長がおっしゃったように、また1年目ですので、学校園だけではなくて、社会教育施設や、図書館などに足を運んで、勉強したいと思いますので、またよろしくお願ひしたいと思っています。

以上です。

○奈良教育長 ありがとうございます。

それでは、本日の公開とする協議会は以上となります。